

# 経済・金融 フラッシュ

## 【台湾GDP】

### 高成長達成も懸念払拭には至らず

経済研究部 研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1824 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

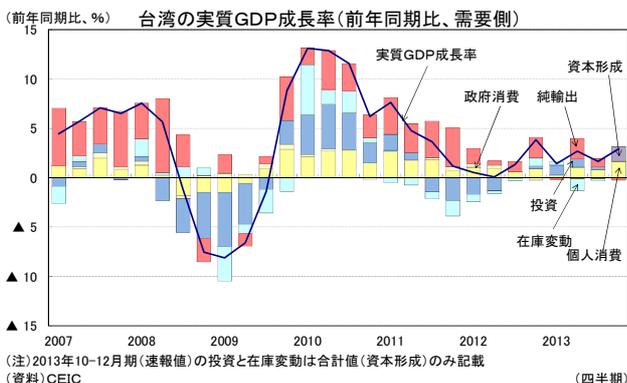
#### 1. 現状:成長率は大幅改善

台湾の行政院主計処（DG B A S）は1月28日、2013年10-12月期の実質域内総生産（GDP）の速報値を公表した。成長率は前年同期比（原系列）で+2.92%となり、前期の2013年7-9月期（同+1.66%）から大幅に改善した。また、前期比（季節調整済）の伸び率でも+2.43%（年率換算では+10.08%）と大きく加速している。その結果、2013年通年の成長率は前年比+2.19%と前期（同+1.48%）から改善、同機関が11月時点に予測していた伸び率（同+1.74%）を上回った。

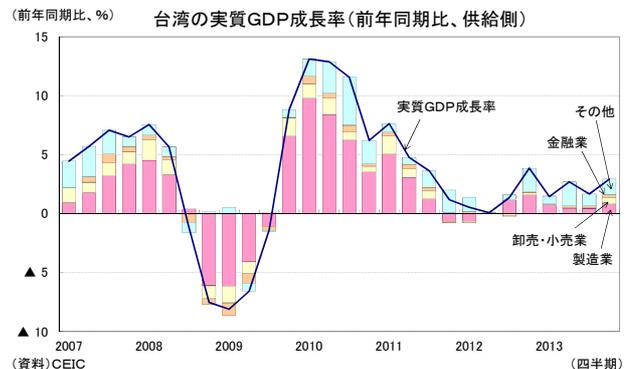
実質GDP成長率を需要項目別に見ると（図表1）、内需が成長率を押し上げたことが分かる。実際、個人消費は前年同期比+3.25%（前期:同+1.48%）、資本形成（投資+在庫変動）が前年同期比+9.74%（前期:同+0.82%）といずれも大幅に改善、政府消費は前年同期比+0.08%（前期:同▲1.20%）と伸び率は低かったものの、マイナス圏から脱しており、内需の成長率への寄与度は+3.17%ポイント（前期:同0.79%ポイント）となった。純輸出については、輸出が前年同期比+3.95%（前期:+1.69%）と改善したものの、輸入も前年同期比+3.17%（前期:同+0.69%）と改善したため、成長率への寄与度では▲0.25%ポイント（前期:同+0.87%ポイント）と悪化している。

供給側では、主要産業である製造業が前年同期比+2.63%（前期:同+1.40%）と改善し成長を牽引した（図表2）。その他の第二次産業も、電気・ガス業が前年同期比+1.63%（前期:同+1.81%）、建設業が前年同期比+1.32%（前期:同▲0.05%）と概ね良好だった。また、今期はサービス業が好調であり、卸・小売業が前年同期比+3.01%（前期:同+0.39%）、輸送が前年同期比+4.40%（前期:同+2.34%）、宿泊・飲食業が前年同期比+2.22%（前期:同+1.45%）、金融業が前年同期比+4.76%（前期:同+2.51%）と多くの業種で改善が見られた。

（図表1）



（図表2）



## 2. 先行き:油断はできない

台湾の2013年10-12月期の成長率は前年同期比で3%近くを達成、前期比年率で10%を超える伸び率を記録した。当局の11月の予測（前年同期比で+1.22%、前期比年率で+2.96%）や市場予測（前年同期比で+1.83%、bloomberg集計）を大幅に上回っており、ポジティブサプライズだったと言える。ただし、2013年は一進一退の状況が続いており、今期の内容も、好感できる材料がある一方で、肝心の輸出が伸びていないことから、懸念も残る結果だったと言える。

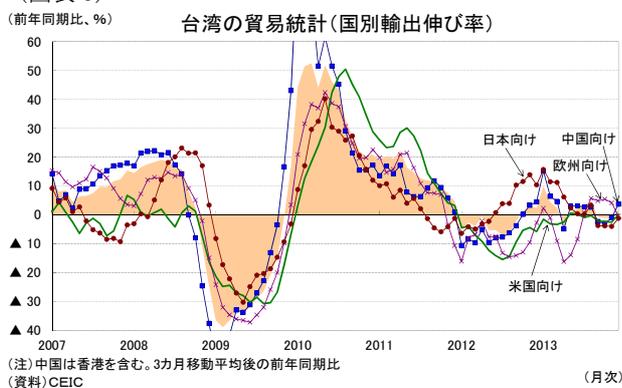
消費については、昨年後半、台湾で食品偽装問題が大きな社会問題になったため、低迷も懸念されたが、この影響はほとんど見られなかったと言える。商業販売統計によれば10-12月期の飲食業の伸び率は前年同期比+2.8%となり前期（同+1.4%）から加速した。今期は車を中心に耐久消費財の売れゆきが良く、卸売業が前年同期比+2.0%（前期:▲0.3%）と回復したほか、小売業も前年同期比+4.3%（前期:同+1.2%）と改善した。春節（旧正月）前で需要が伸びやすい時期だったことに加え、自動車会社による販売促進運動や中国人を中心とする観光客の増加が内需の伸びに寄与したと言える。

投資についても、昨年後半には米Apple社のiPhoneやiPadの新機種発売があり、需要が押し上げられたことが追い風になった。TSMCなどの半導体メーカーが設備投資を増やしており、また、今年も引き続き大規模な投資を予定していることも好材料と言えるだろう。

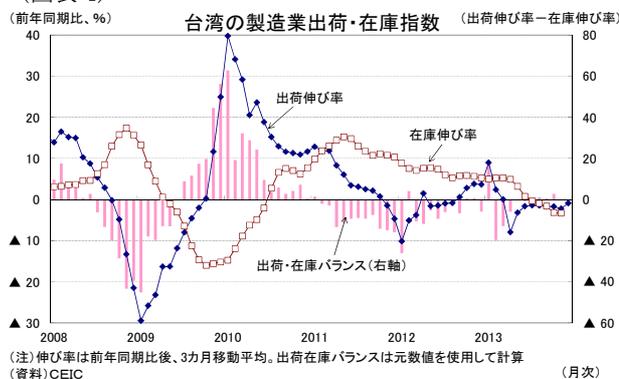
一方、輸出については、まだ油断できない状況と言える。月次の輸出状況を見ると、輸出シェアで約4割を占める中国・香港向けの輸出、そして日米欧の先進国向けの輸出について明確な改善は見られない。中国・香港向けの輸出は、11・12月に限れば一時的に伸びたものの、勢いに欠ける<sup>1</sup>。製造業全体で見たときに、在庫の減少に比べて、出荷額の改善が弱いことも気掛かりな材料と言える（図表2）。

輸出が伸びなければ、消費や投資の伸びも持続せず、再び鈍化してしまう可能性が高い。中国におけるスマートフォンの販売や半導体需要が増えれば、今後、輸出が改善する期待も大きくなるが、受注競争も激しくなっていることから、半導体需要が一服すれば成長が鈍化しやすい状況でもある。台湾内でもPCやパネルなど一部の業種では需要の回復が見られないことも踏まえると、半導体を中心とした輸出回復だけでどこまで支えられるか不透明な部分もある。いずれにせよ、3%近い成長を達成したとは言え、油断できない状況であると言えるだろう。

（図表3）



（図表4）



<sup>1</sup> 中国・香港向け輸出も春節前の需要期には伸びやすいという傾向がある（春節は2013年は2月10日、2014年は1月31日）。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。